魅力発信！えひめ農業

令和8年6月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、6月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
６月のトピックス５選 3
いちご新技術導入促進事業の実績報告会を開催 3
さといも優良種苗の新たな増殖技術「親芋直接採取法」の普及に向けて協議 3
「媛かぐや」の加工向け出荷体制の構築支援 4
「にじのきらめき」との二毛作でブロッコリーの作付け拡大を図る 4
高校生が地域の農業を学習 5
えひめ農業 6
■東予地方局地域農業育成室 6
さといも種芋の加温技術について拠点間の意見交換を実施 6
ドローンの実演により多目的利用を検討 6
特定外来生物ナガエツルノゲイトウの防除対策を指導 7
ぶどう摘粒～収穫にかけた栽培管理を学ぶ講習会を開催～ 7
さつまいも定植体験を通した食育活動を支援 8
周桑地区で「ひめの凜」の中干し講習会を開催 8
■東予地方局地域農業育成室四国中央農業指導班 9
やまのいもの省力支柱栽培（改良型）実証を開始 9
「やまじ丸」産地振興対策検討会を開催 9
「ひめの凜」中干し・穂肥講習会を開催 10
■東予地方局産地戦略推進室 10
絹かわなすの IPM を部会員に周知 10
■今治支局地域農業育成室 11
さといもの単収向上に向けた栽培講習会を開催 11
集落営農法人の経営多角化に向けたいちご栽培指導を実施 11
農福連携について考える研修会を開催 12
ぶどう栽培農作業体験を通じて農業の魅力を高校生へ発信 12
なし園でのサル侵入防止対策を実施 13
愛媛果試第 48 号の摘果講習会を開催 13
■今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班 14
再編復旧園における排水対策を検討 14
低コスト簡易防鳥ネットの自主施工を推進 14
■今治支局産地戦略推進室 15
メロン栽培における BS 資材や液肥の施用による栽培比較の実施 15
■中予地方局地域農業育成室 15
さといも栽培における自動給水装置等の設置と実証を開始 15

いちご炭疽病の感染発病メカニズムに基づく防除方法を学ぶ 16
若手普及職員と JA 研修センター研修生が高設いちご作業体験を通じ交流を図る 16
女性農業者がかんきつ有望品種の摘果を学ぶ 17
枝物類の安定生産に向けた栽培講習会の実施 17
■中予地方局地域農業育成室伊予農業指導班 18
農山漁村の活力となる食文化伝承の取組 18
水稲の気候変動対策現地実証試験を開始 18
■中予地方局地域農業育成室久万高原農業指導班 19
青年農業者が土着天敵タバコカスミカメについて学ぶ 19
久万高原トマトの出荷始まる 19
■中予地方局産地戦略推進室 20
トレイルカメラで安価に「甘平」の土壌水分の変化を把握 20
■南予地方局地域農業育成室 20
さといも新規生産者に夏期管理を講習 20
認定農業者組織が経営改善に係る勉強会を開催..... 21
■南予地方局地域農業育成室鬼北農業指導班 21
高周波音を用いたももの鳥害対策実証を開始 21
水稲の水管理自動化による省力化実証開始 22
■南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班 22
ドイツ・ベルリン愛媛フェアに「misho（河内晩柑)」を発送 22
■南予地方局産地戦略推進室 23
「つるむらさき」の新規産地・愛南町で出荷講習会を開催 23
■八幡浜支局地域農業育成室 23
かんきつの摘果について意識統一 23
新規就農者確保に攻めの一手！倉庫問題解決プロジェクト始動！ 24
■八幡浜支局地域農業育成室大洲農業指導班 24
高周波装置を利用した鳥獣被害抑制実証ほを設置 24
シャインマスカットの副梢（ふくしょう）管理省力化実証試験を開始 25
■八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班 25
今年も地元の生徒・児童が大野ヶ原にんにくの収穫作業を体験 25
■八幡浜支局産地戦略推進室 26
さといもの新たな産地化を目指して 26
青ねぎの気候変動対策の実証を開始 26
■農産園芸課高度普及推進グループ 27
第１回果樹調査研究会を開催 27
第１回野菜・環境保全型農業調査研究会を開催..... 28

６月のトピックス５選

標　題	いちご新技術導入促進事業の実績報告会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月 18 日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	いちご生産者（６人）	連携機関	農林水産研究所、JA（周桑、えひめ未来）等	
普及指導内容	○オランダの最先端技術の導入による単収向上を図り、儲かる農業の実現を目指す局予算事業の実績報告会を開催し、生産者や関係者で成果を共有した。 ○当室からは、新技術導入による栽培改善事例等を報告したほか、JA えひめ未来の生産者から、８段サーモを活用した環境制御技術の導入により、収量が 10%向上した事例紹介が行われた。			
結果と今後	○参加した生産者からは、「本ぽ定植後のランナーを株元に挿して収量を伸ばす手法の有効性」や、「夏秋期の高温化に伴う育苗の困難さを解消するための対策技術開発」を求める声など、現場に即した具体的な意見が寄せられた。 ○今年度も引き続き外部専門家と普及指導員が連携し、新技術の確実な定着を目指すとともに、新技術のマニュアルを作成し、県内全域への技術波及を図る。			

左：実績報告に耳を傾ける生産者
右：生産者の代表による事例紹介

標　題	さといも優良種苗の新たな増殖技術「親芋直接採取法」の普及に向けて協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 18 日	場所	今治支局	
指導対象	さといも優良種苗新増殖技術協議会（21 人）	連携機関	岩谷産業（株）、伊予農産（株）、JA おちいまばり、今治市、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	○当室では、昨年度から地方局予算を活用し、通常廃棄している親芋から低コストかつ短期間で優良種芋を生産できる新増殖技術の確立に取り組んでいる。 ○協議会において、昨年度の現地実証データを踏まえ、本年度の活動計画と新増殖技術の実用性・有効性の検討及び優良種芋の安定生産・供給体制の構築について協議した。			
結果と今後	○生産者（JA 里芋部会）からは、罹病のない優良種芋の供給が不安定であることから、新増殖技術の確立への期待が示された。 ○新たに確認された課題の解決に向け、種芋の貯蔵方法やマルチ内の水分状態の把握などの現地実証に取り組むことを決定した。 ○今後とも、協議会を中心に実証結果の確認と技術確立を進め、新増殖技術マニュアルの整備と現場での優良種苗生産体制の構築に向け取り組んでいく。			

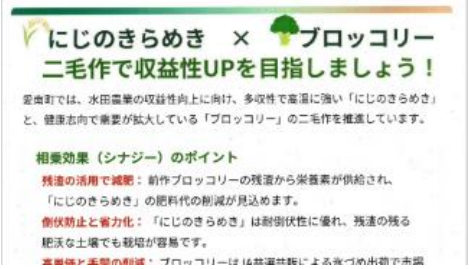
参加者による意見交換

標　題	「媛かぐや」の加工向け出荷体制の構築支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年６月 26 日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	生産者ほか（15 人）	連携機関	伊予市、松前町、砥部町、（株）ダイイチフーズ、JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○当班は、「媛かぐや」産地育成推進会議を主導し、加工出荷を主軸とする本年度方針の策定のほか、関係機関との情報共有や合意形成を図った。 ○また、製造加工業者を巻き込んだ「媛かぐや」ブランド流通促進コンソーシアムの設立を後押しし、県事業を活用した販売促進活動を提案した。 ○なお、栽培面では、種芋不足や定植遅れに関連して実施した巡回指導等の結果を共有し、作付け及び生育は概ね順調であることや、今後の対策等を関係者に周知した。			
結果と今後	○本年度は、これまで廃棄されていた欠け・折れ等の規格外品や子芋を製造加工業者が試験的に買い取り、加工向けの受け入れ許容範囲等を確認する方針となった。 ○当班は、今後、加工に適した大型・多収栽培技術を推進し、収益性の確保を図るとともに、持続可能な出荷スキームの確立に向け、伴走型支援を継続する。			

左：推進会議で協議する関係者

右：媛かぐやコロッケ
※（株）ダイイチフーズ提供

標　題	「にじのきらめき」との二毛作でブロッコリーの作付け拡大を図る		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年６月５日	場所	愛南町全域	
指導対象	JA えひめ南南宇和稲作部会員（200 人）	連携機関	JA えひめ南、愛南町農林課	
普及指導内容	○当班では、高収益水田農業の実現に向け、水稲とブロッコリーの二毛作を推進することとし、水稲品種「にじのきらめき」の栽培者をターゲットに、ブロッコリーの作付けを勧める啓発用チラシを作成し、新規作付けの呼びかけを行った。 ○「にじのきらめき」は施肥要求量が高く、ブロッコリーの“残さ”から栄養が供給されるため、肥料代の削減が期待できるなど、二毛作としての相性も良い。			
結果と今後	○呼びかけ後、新たにブロッコリー栽培に取り組む意向が一定数確認された。 ○本チラシは JA 広報誌にも掲載し、幅広に呼びかけるなど更なる推進を図る。 ○引き続き、作付け拡大に合わせ、ドローン防除等の省力栽培体系の検討・推進、安定生産に向けた技術普及、啓発に取り組み、ブロッコリー産地の維持発展を目指す。			



栽培啓発用チラシ

【二毛作】
同じ田や畑で、１年の間に２種類の異なる作物を連続的に栽培する農法。
（水稲＋ブロッコリーなど）
同じ作物を１年に２回収穫するのは“二期作”。

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">高校生が地域の農業を学習</td><td>機関名</td><td>八幡浜支局地域農業育成室
西予農業指導班</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和８年６月 11 日</td><td>場所</td><td colspan="2">県立宇和高校</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>県立宇和高校生徒（30 人）</td><td>連携
機関</td><td colspan="2">県立宇和高校</td></tr>
<tr><td>普及指導
内容</td><td colspan="4">〇若者へ農業の魅力を伝え、将来の新規就農者を確保するため、県立宇和高校生物工学科・普通科の生徒を対象に「地域農業学習会」を開催した。
〇学習会では、当班が管内の農業の現状や農業と SDGs の関係などについて講義したほか、生徒が「自分の考える儲かる農業」についてその場で考え、発表した。</td></tr>
<tr><td>結果と
今後</td><td colspan="4">〇生徒からは、「市場での売れ筋を調べ、ニーズに合った農業を行う」「農業者同士で新たなブランドを作り、安定供給先を探す」など、様々な儲かる農業のアイデアが発表され、就農した際の具体的なイメージが共有された。
〇学習会全体を通して、生徒からは「農業は大変なことも多いが、それ以上にいろいろと挑戦できる分野だと分かり、将来の夢が広がった」「地産地消で西予の農業を応援していきたい」といった意見が寄せられた。
〇当班では、今後も教育機関と連携し、農業の魅力発信を通じた新規就農確保対策に取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
左：指導班による講義
右：自分なりの「儲かる農業」について発表する生徒</td></tr>
</table>

えひめ農業

標　題	さといも種芋の加温技術について拠点間の意見交換を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月８日、23 日	場所	今治市（菊間、高橋、日高）新居浜市角野	
指導対象	東予、今治、大洲管内のさといも栽培者	連携機関	今治支局、八幡浜支局、大洲指導班	
普及指導内容	○廃棄する親芋から健全な種芋を採取する「親芋直接採取増殖法」の技術確立に向けて、各普及拠点で同技術の実証に取り組んでいる。 ○各実証ほ場で、各普及拠点の担当者と情報交換を行った。 ○本年度からは、慣行栽培で使用している孫芋も、同様に加温して定植し、その増収効果等を調査している。			
結果と今後	○加温した親株採取増殖区や種芋区では、慣行栽培に比べ地上部、地下部共に生育が 17 日程度進むとともに、葉面積も３倍程度大きくなっていることから、視察者も生育の旺盛さに驚きを示していた。 ○今後も他の普及拠点の職員と情報共有を図りながら技術の知見を深め、新増殖法や種芋加温技術の確立に向けて継続して取り組む。			

今治支局実証ほ場での意見交換

大洲、八幡浜職員による現地視察

親株採取増殖法の実証状況

標　題	ドローンの実演により多目的利用を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月４日	場所	農事組合法人川根集落営農組合	
指導対象	川根集落営農組合（10 人） （株）かわね農援	連携機関	日本ディーアールシステム（株）	
普及指導内容	○集落内の農地を管理する川根集落営農組合に、防除作業等の請負いを検討している農業法人の（株）かわね農援を招き、ドローンによる施肥、防除作業の実演を行った。 ○（株）かわね農援は、今年３月に設立された法人であり、既にリモコン草刈り機を用いて畦畔等の除草作業を請け負っている。 ○当日は、水稲への肥料及び除草剤散布を行うとともに、かきへの農薬散布を想定した水散布を行い、散布中の液の浮遊状況や葉・枝への付着状況を確認した。			
結果と今後	○最新型のドローンでは、飛行経路がこれまでよりも簡単に自動設定されること等が確認できた。一方で、かきの防除に関しては、従来のスピードスプレーヤーと比較して薬液の付着が少なく、薬剤の散布量や飛行高度、樹形の改善等の検証が必要となった。 ○当室は、引き続きドローンの販売事業者等の協力を得ながら、関係者とともにドローンの多目的利用の可能性や導入に伴う経費面の検証等を進める。			

自動設定された飛行経路

水田での施肥・防除試験

かき園での薬剤散布試験

標　題	特定外来生物ナガエツルノゲイトウの防除対策を指導		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 10 日	場所	西条市内各地	
指導対象	発生農地管理者他（８人）	連携機関	西条市、JA 周桑	
普及指導内容	○管内における特定外来生物ナガエツルノゲイトウの生育域の拡大を防ぐため、昨年に引き続き、農地管理者等と連携した防除活動を展開した。 ○事前に、発生が確認された２区域の農地管理者と、前年の防除効果及び発生状況を確認し、生態特性（断片から容易に再生）や除草時の留意点等を指導した。 ○畦畔や畑地の生育旺盛な箇所を中心に、効果的な除草剤の使用方法を助言し、散布を指導した。			
結果と今後	○散布後、防除効果や発芽状況の現地確認を実施し、散布箇所の枯死を確認した。 ○今後は、発生状況を引き続き監視しながら農地管理者に対し残存株の的確な駆除等を指導する。			

発生状況等の確認

除草作業の説明

畑地の除草剤散布

標　題	ぶどう摘粒～収穫にかけた栽培管理を学ぶ講習会を開催～		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月８日、22 日	場所	西条市丹原町	
指導対象	ぶどう生産者（57 人）	連携機関	―	
普及指導内容	○管内では JA を通じた系統出荷が行われておらず、生産者間の交流や技術共有の機会が限られていたことから、当室では昨年度より本講習会を企画し、主要な管理作業のタイミングに合わせて継続して開催している。 ○講習会では、着房過多を防ぐための房数管理基準、品質に影響する摘粒の時期と程度、新梢管理のポイント等について実演を交えて説明した。			
結果と今後	○出席者は、摘粒管理や生理障害対策への関心が高く、高温による着色不良対策に関する質疑も多く寄せられるなど、栽培技術向上への意欲がうかがえた。 ○今後も関係機関と連携し、高温環境への対応技術や省力化技術の導入、実証も視野に入れながら、持続的な産地形成に向けた支援を継続する。			

栽培管理について説明

予備摘粒の実演

意見交換

標　題	さつまいも定植体験を通した食育活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年５月 26 日、６月４日	場所	西条市立神戸小学校、国安小学校	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会会員 （延べ 10 人）	連携 機関	西条市、西条市教育委員会 JA えひめ未来	
普及指導 内容	○青年農業者協議会が実施する食育活動の一環として、神戸小学校３年生及び国安小学校２年生を対象に、さつまいもの定植体験の運営支援を行った。 ○さつまいもの定植に慣れていない児童には、苗の植え方、土のかぶせ方、マルチに穴を大きく開けると雑草が生えやすくなることなどを指導した。			
結果と 今後	○参加した児童からは、「苗を植えるときに土を少し掘るのが難しかった」「植えた苗の様子を休み時間に観察したい」「自分で育てたさつまいもを食べたい」などの感想があり、苦労して植えた植物の成長から食べ物について考えようとする姿勢がうかがわれた。 ○９月下旬～10 月上旬には各小学校での収穫作業を支援し、その後には焼き芋イベントと出前授業を実施する予定である。 ○今後も会員とともに児童への食育活動を支援していく。			

定植指導する会員（５/26 神戸小）

児童からの挨拶（５/26 神戸小）

定植方法の説明（６/４国安小）

標　題	周桑地区で「ひめの凜」の中干し講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 24～26 日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	JA 周桑「ひめの凜」認定栽培者 （210 人）	連携 機関	JA 周桑	
普及指導 内容	○「ひめの凜」の栽培管理で重要な中干しと水管理の徹底を目的に、講習会を開催した。 ○周桑地区では６月上旬から中旬にかけて田植えを行ったほ場が多いが、低温および日照不足により生育が遅れているため、田植え後、約１か月経過時点で１株当たりの茎数が 18～20 本に達していれば中干しを開始するよう指導した。 ○また、７月以降に熱中症患者が多くなることから、対策を説明した。			
結果と 今後	○生育状況が低温多雨傾向にあり、昨年の少雨傾向と異なるため、今後は生育状況と病害虫発生に注意しながら栽培管理を継続する必要がある。 ○７月下旬に穂肥講習会を開催し、「プレミアムクオリティ」米の生産に向けて引き続き指導を行う。			

中干しの目的を説明

熱中症対策を説明

現地で生育状況を説明

標　題	**やまのいもの省力支柱栽培（改良型）実証を開始**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和８年６月１日、11 日	場所	四国中央市土居町各地	
指導対象	やまのいも生産者（２人）	連携 機関	JA うま、（株）JA ファームうま	
普及指導 内容	○やまのいも栽培の省力化を図るため、管内２か所で従来の支柱栽培にきゅうりネットを利用した省力支柱栽培（改良型）の実証を開始した。 ○昨年度まで実証したアーチパイプときゅうりネットを用いた省力支柱栽培は耐久性等に課題があったため、生産者や関係機関と協議し、今年度は改良型で実証を行っている。			
結果と 今後	○支柱等設置時間は慣行支柱栽培と比較すると、ひも張りの時間は短縮されたものの、きゅうりネットの設置に時間がかかったが、ネットによるつる誘引、つる直しの省力化は期待できる。 ○今後は、つる誘引やつる直し、生育状況、芋の収量及び品質、支柱等の撤去時間などを調査し、省力支柱栽培（改良型）の実用化について検討する。			

左：省力支柱栽培（改良型）実証ほ

右：慣行支柱栽培

標　題	**「やまじ丸」産地振興対策検討会を開催**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和８年６月 29 日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	やまじ丸生産振興協議会委員 （９人）	連携 機関	JA うま、四国中央市	
普及指導 内容	○四国中央市の特産品であるやまのいも（ブランド名：やまじ丸）の産地維持・強化を目的に検討会を開催し、昨年度の活動報告と今年度の活動計画を検討した。 ○近年、収穫したやまのいもの秀品率低下が課題となっているため、省力化栽培の推進に加え、高品質かつ多収栽培技術の向上が必要である。 ○このため、今年度から実施する省力支柱栽培（改良型）の実証やマルチ資材比較試験について意見を求めた。			
結果と 今後	○出席者からは、秀品率向上のメカニズム解明を求める意見が出された。 ○販売面では、道後の宿泊施設で実施した昨年のアンケート結果を活用し、できるだけ生芋利用の促進につながる取組を行うことを申し合わせた。			

「やまじ丸」の産地振興について意見交換

標　題	「ひめの凜」中干し・穂肥講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和８年６月 25 日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（53 人）	連携機関	JA うま、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	○指導班は、中干しの方法及び中干し後の水管理、穂肥診断、収穫後の乾燥調製等の基本技術を指導した。 ○併せて、熱中症防止及びトラクター事故の現状と予防ポイントを説明し、農作業安全の啓発を行った。 ○農林水産研究所は、実際の稲を用いて中干し時期の目安を説明した。 ○農産園芸課は、リアルタイム農業普及指導ネットワークの概要を説明し、適期に栽培技術情報を取得できるよう登録を呼びかけた。			
結果と今後	○中干しの適期や施肥方法について質疑応答が活発に行われ、認定栽培者の生産意欲が向上した。 ○リアルタイム農業普及指導ネットワークには 21 人の申し込みがあった。 ○今後は基本技術の徹底を図りながら面積拡大に取り組む予定。			

左：栽培技術の基本を指導
右：農作業安全を啓発

標　題	絹かわなすの IPM を部会員に周知		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月 11 日、17 日、23 日	場所	JA えひめ未来　あぐりセンター 西条市内各地	
指導対象	絹かわなす生産者（15 人）	連携機関	JA えひめ未来、農産園芸課	
普及指導内容	○当室では、今年度より難防除害虫であるコナジラミ類の防除手段として、天敵を利用した IPM（総合的病害虫管理）を推進している。 ○このほど栽培講習会において、２か所に設置した実証ほ場の取組を説明するとともに、天敵保護を前提とした栽培体系への移行について生産者の理解を求めた。 ○実証ほ場においては、冬春きゅうりほ場で採取したタバコカスミカメの放飼を行い、天敵利用による実証試験を本格的に始動した。			
結果と今後	○実証農家からは、「天敵の保護のために農薬の使用タイミングや種類を見直すようになった」との声が寄せられた。 ○今後は、天敵の定着性や害虫の発生状況を継続的にモニタリングし、その効果を検証するとともに、現地検討会等を通じて管内生産者への IPM 防除の普及を図る。			

栽培講習会

タバコカスミカメの放飼

ゴマ上のタバコカスミカメ

標　題	さといもの単収向上に向けた栽培講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月１日	場所	農業生産法人（株）ファーム咲創 JA おちいまばり日高支店	
指導対象	JA おちいまばり里芋部会（24 人）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○近年、ハダニ類の多発生や夏季の高温による生育不良が問題となっており、防除体系やかん水の目安、排水対策などの基本管理技術の徹底と現地巡回指導を実施した。 ○併せて、台風接近に伴い疫病の発生やまん延が懸念されるため、発生条件や作物への影響、治療剤の応急散布方法について指導した。			
結果と今後	○優良モデル園の現地視察では、「基本管理のポイント」「作業効率」に関する質問が寄せられ、病害虫・雑草を発生初期に抑え、防除回数を減らすことを指導した。 ○今後とも関係機関と連携して定期的な巡回と個別指導を実施し、地域の栽培状況に応じた管理指導を徹底することで、平均単収 2.5t 以上の実現を目指す。			

基本管理技術の徹底を指導

優良モデル園の栽培状況確認

ハダニ類の初期症状

標　題	集落営農法人の経営多角化に向けたいちご栽培指導を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 17 日、６月 19 日	場所	農事組合法人　サポート中寺	
指導対象	新規雇用就農者（１人）	連携機関	―	
普及指導内容	○当法人は、経営多角化の一環として令和６年度からいちご栽培に取り組んでおり、いちご栽培部門責任者である新規雇用就農者に対する育苗指導を実施した。 ○育苗中の苗にハダニ類及びうどんこ病の発生が認められため、防除履歴を踏まえた追加防除の指導を行った。 ○併せて、鉢受け作業に遅れが見られたことから、今後の作業計画を整理し、計画的な実施を助言した。			
結果と今後	○追加防除実施後の状況を確認した結果、ハダニ類及びうどんこ病の発生は収束した。 ○今後は育苗管理の作業手順の平準化及びマニュアル化を進め、パート職員等を含めた作業効率向上の支援を図るとともに、集落営農法人における経営多角化のモデルとして、栽培管理から販売まで継続した指導・支援を進めて行く。			

左：ハダニ類の多発生による葉の吸汁被害

右：防除及び作業行程の改善指導

標　題	**農福連携について考える研修会を開催**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 25 日	場所	NPO 法人アクティブマインド（今治市神宮）	
指導対象	農業者（５人）及び福祉施設事業所支援員（６人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○農業者と福祉施設事業所が交流し、相互理解を深めることによる農福連携の推進を目的とした、農福連携促進研修会を開催した。 ○(株)まさきばたけからは、農福連携事例を紹介し、日本スポーツ健康科学学会から農作業現場における熱中症予防対策について講演を行った後、参加者による意見交換を実施し、農福連携に関する理解の促進を図った。			
結果と今後	○研修会を通じて、農業者２人が農福連携に取り組む意向を示し、福祉施設事業所２か所からも前向きな意向が確認された。 ○今後も、農業者と福祉施設事業所とのマッチングを進めるとともに、福祉施設事業所スタッフを対象とした栽培技術研修会の開催など支援を継続し、更なる農福連携の推進を図っていく。			

左右：農福連携事例紹介や熱中症予防対策講演

標　題	**ぶどう栽培農作業体験を通じて農業の魅力を高校生へ発信**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 12 日	場所	今治市宮窪町友浦	
指導対象	県立今治南高校３年生（９人）	連携機関	JA おちいまばり、今治 CATV（株）	
普及指導内容	○農作業を学び、体験する機会を通じて農業への理解と関心を深めることを目的とした農作業体験（摘粒作業）研修を開催した。 ○シャインマスカット栽培の概要について説明し、生産者が当地域におけるぶどう栽培の歴史や摘粒作業のポイントを解説した後、生徒は摘粒作業を体験した。			
結果と今後	○生徒はポイントを踏まえ、適宜質問しながら作業のコツを習得し、熱心に摘粒作業に取り組み、農業への興味・関心が高まった生徒も見られた。 ○今後は、７月上旬にかんきつ栽培、12 月上旬に里芋栽培の農作業体験を予定している。 ○活動の様子は、今治 CATV の地域情報チャンネルで放送予定であり、引き続き農業の魅力発信と就農者の養成に努めていく。			

生産者からぶどう栽培を学ぶ

作業ポイントを指導

摘粒作業を実施

標　題	なし園でのサル侵入防止対策を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 17 日、29 日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし生産者（１人）	連携機関	岡山理科大学獣医学部	
普及指導内容	○昨年度にサル侵入対策を実施したなし園において、約 50 果の落下及び食害が確認されたことから、岡山理科大学と連携して現地調査を実施した。 ○電気柵の通電状況を確認し、漏電箇所を特定するとともに、漏電防止のための周辺環境整備及び電気柵の維持管理の徹底を指導した。			
結果と今後	○漏電箇所の修復と周辺環境の整備を実施し、防護体制の改善を図った。 ○併せて、園地に設置したセンサーカメラを活用し、サルの侵入経路や出没状況を継続的に把握することとした。 ○今後は、電気柵の維持管理や周辺環境の点検を継続実施し、サルの侵入防止及び園地をエサ場としない防護体制づくりを支援していく。			

なし園の被害状況

岡山理科大学と連携した現地対策

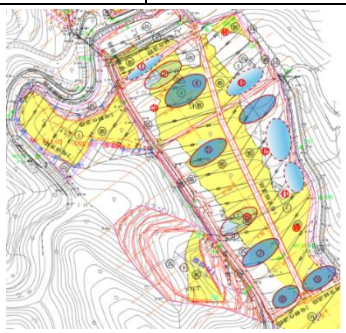
電気柵の修復

担当者	技師　松上　拓徒	関連ビジョン名	鳥獣害対策モデル集落育成

標　題	愛媛果試第 48 号の摘果講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 25 日	場所	今治市菊間町、大西町	
指導対象	「愛媛果試第 48 号」生産者（38 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○「愛媛果試第 48 号」をブランド産品「紅プリンセス」として出荷できる割合の向上を目指し、摘果講習会を開催した。 ○当日は、密集している部分を間引くことから始めること、日焼けが出にくい果実を残すことについて実演を交えて重点的に説明した。			
結果と今後	○生産者からは、残す果実の見分け方、着果量が少ない樹の対処法、かいよう病防除について等多岐にわたる質問が出されるなど、生産意欲の高さが感じられた。 ○紅プリンセスは、県及び JA が推進する「紅コレクション」の一つとして、生産拡大が期待される重要品種であることから、今後も関係機関と連携した指導を継続し、出荷割合の向上による生産者の所得向上を支援していく。			

左右：講習会を受ける生産者

標　題	再編復旧園における排水対策を検討		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年６月 23 日	場所	今治市上浦町盛	
指導対象	JA おちいまばり再編復旧園担当者 （１人）	連携 機関	今治支局農村整備課	
普及指導 内容	○豪雨災害からの営農再開を支援している盛地区の再編復旧園：中段工区（2.9ha）において、遠隔自動かん水の効果的な活用を目指し、14 か所の土壌水分を測定し水分分布の特徴を調査している。 ○今回は、梅雨時期の約１か月間の調査データを基に、今後の排水対策の実施に向けた意見交換を行い、著しく水分の多い箇所では地下水や湧水の影響が懸念されることから、暗きょを設置するなど効果的な対策を行うことを確認した。 ○暗きょ排水については、昨年度に先行して設置した海側工区（１ha）で排水改善の効果が確認されたことから、中段工区でも同様の工法で検討することを申し合わせた。			
結果と 今後	○引き続き、土壌水分を調査し水分分布の特徴を把握して、適切な排水改善の実施と効果的な遠隔自動かん水の活用につなげていく。			



中段工区の図面

調査状況を説明、指導

海側工区の排水対策

標　題	低コスト簡易防鳥ネットの自主施工を推進		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年６月 10 日	場所	今治市伯方町叶浦	
指導対象	かんきつ生産者（３人）	連携 機関	―	
普及指導 内容	○低コスト簡易防鳥ネット導入モデル園設置のため、５月に支柱やプラスチックワイヤーなどの設置を支援した伯方町のかんきつ園地約 5.6a において、防鳥ネットの効率的な被覆方法を指導した。 ○地元の生産者３人（うち新規就農者１人）は、高所に張ったワイヤーに自作の補助器具を使ったネットの展張方法や、ネットすそ部分の固定方法等についてポイントを確認しながら作業を行っていた。			
結果と 今後	○今後は、同防鳥ネット等の地域への導入を引き続き推進し、地域のかんきつ栽培の実情に応じた鳥獣害防止対策の実施を支援する。			

ネット被覆作業①

ネット被覆作業②

被覆作業が完了した園地

標　題	メロン栽培における BS 資材や液肥の施用による栽培比較の実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月 15 日～29 日	場所	今治市朝倉下	
指導対象	タカミメロン生産者（１人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○当室が産地化を目指しているタカミメロンは、昨年度、着果 35 日以降に樹勢が急激に低下したことから、今年度は樹勢の維持・果実品質の平準化を目的に、生産者と連携して BS 資材や液肥の施用による栽培比較に取り組んでいる。 ○６月 15 日以降、収穫の目安となる着果 50 日を迎えた果実を順次摘み取り、重量や縦横長、つるの長さ・重さ、根量を調査した。			
結果と今後	○現在のところ、病害虫やウイルス等の大きな被害はなく、生育は順調に推移している。 ○得られた調査データは、生産者や JA 等関係機関の会議で共有する予定である。 ○７月には今治産メロンの更なる認知度向上を図るため、販促イベントを実施する予定である。			

根量測定

【BS 資材】
農作物又は土壌に施すことで農作物やその周りの土壌が元々持つ機能を補助する資材。

標　題	さといも栽培における自動給水装置等の設置と実証を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月４日	場所	東温市下林	
指導対象	実証農家（２人）	連携機関	JA えひめ中央、農産園芸課	
普及指導内容	○さといも生産者の作業省力化と規模拡大を目的に、令和７年度から自動給水装置（以下「給水装置」）によるかん水作業の実証試験を実施している。 ○給水装置の活用により作業時間を 14%短縮した実績があり、今年度は新たに水位センサーを導入し、ほ場水位とかん水後の pF 値（土壌水分）を調査することで、かん水作業の最適化を図る。			
結果と今後	○給水装置等の設置と動作確認の時間は約 30 分であり、生産者からは「設置が比較的容易でかん水の操作も簡単」といった声が寄せられた。 ○今後は定期的に調査を行い、データの蓄積と解析を進め、省力化による作付面積の増加と併せて産地規模の拡大を目指す。			

左：自動給水装置（スマホ操作により水門を開閉できる）

右：水位センサー（リアルタイムで水位と水温のデータを取得できる）

標　題	**いちご炭疽病の感染発病メカニズムに基づく防除方法を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月８日	場所	JA えひめ中央東部営農センター	
指導対象	JA えひめ中央東部いちご部会及び研修生（31 人）	連携機関	JA えひめ中央、農林水産研究所	
普及指導内容	○近年の高温および集中豪雨等により、管内でいちご育苗期の炭疽病被害が甚大となっているため、勉強会を開催した。 ○農林水産研究所から「炭疽病の感染発病メカニズムに基づく効果的な防除方法」をテーマに、病徴の発現や類似症状との識別、薬剤の効果、伝染源と発病リスク等について、専門的な知見を得た。			
結果と今後	○出席者からは、発病株の早期発見と除去方法、予防・治療の的確な薬剤散布等に関する質問が多数あり、知識の深化につながった。 ○今後は定期的に巡回調査を実施し、各ほ場において早期発見及び効果的な防除対策について、指導を行う。			

熱心に聴講する出席者

標　題	**若手普及職員と JA 研修センター研修生が高設いちご作業体験を通じ交流を図る**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 10 日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター	
指導対象	若手普及職員（４人） JA 研修センター研修生（12 人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○若手普及職員は、基礎的な技術を習得するため、JA えひめ中央新規就農研修センター担当者による指導の下、いちごの収穫作業や収穫後の株の除去、育苗管理などについて、同研修センター研修生とともに作業を行った。 ○若手普及職員は、研修生との意見交換を通じ、就農の動機や自身の将来像、作業管理上の課題など、それぞれの円滑な就農につなげるため、状況を把握した。			
結果と今後	○現在、果樹や水稲などの指導に携わる若手普及職員にとって、今回の作業体験は個々の知見を広げる機会となった。 ○当室では、今後も若手普及職員の作業経験の機会を継続的に提供する。一方、研修生に対しては、就農希望者のニーズに応じた研修の実施により、着実な就農支援を図る。			

左：収穫方法を学ぶ若手普及職員

右：JA 担当者からの説明

標　題	女性農業者がかんきつ有望品種の摘果を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 12 日	場所	松山市中島大浦、吉木	
指導対象	姫たちばな会員（８人）	連携機関	―	
普及指導内容	○当室は、中晩柑類の栽培技術の向上を目的に栽培研修会を開催した。 ○室内研修では、「甘平」「愛媛果試第 28 号」「愛媛果試第 48 号」などを対象に、栽培管理上のポイントを紹介した。 ○現地研修では、「愛媛果試第 48 号」のす上がりと日焼け果対策を中心に説明した。対策として、す上がりには「内すそ」の摘果や誘引による樹の開帳、着果部位の調整を指導し、日焼け果には「有葉果」を残し、果実を葉裏に隠す方法を解説した。			
結果と今後	○参加者からは、「非常に参考になった」との意見があり、栽培管理における実践が期待される。 ○今後は、補助事業を活用した消費者交流（８月）と先進地視察（９月）を実施し、更なる資質の向上を目指し、支援を継続する。			

【姫たちばな】
中島地域の女性農業者で構成。技術研修や先進地視察により、資質向上に取り組む他、各種イベントへの参加や、SNS を通して中島地域の魅力を発信している。

摘果ポイントを学ぶ参加者

標　題	枝物類の安定生産に向けた栽培講習会の実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月３日～30 日	場所	JA（松山市川上支所、えひめ中央東部営農支援センターほか）	
指導対象	JA 松山市ユーカリ専門部（30 人） JA えひめ中央花木部会（160 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○当室は、枝物類の高品質安定生産を目的に、栽培講習会を９回開催し、延べ 107 人の生産者が参加した。 ○ユーカリ・グニーの株枯れ症状対策では、技術確立されているアースオーガ（穴堀り機）による排水性改善技術について、情報を提供した。 ○近年被害が拡大しているアカシアやティナスのカイガラムシ類については、生態に基づく効果的な防除体系について指導した。			
結果と今後	○アースオーガの操作体験では、「取扱いが容易で自分のほ場にも導入したい」との意見があり、現地ほ場での実演・指導の要望が多く寄せられた。 ○カイガラムシ類の被害を受けた生産者は、適期防除の重要性を強く認識していた。 ○枝物産地の強化を図るため、今後も排水性改善対策を進めるとともに、個別巡回による病害虫調査を継続的に実施する。			

講習会で学ぶ生産者

アースオーガの操作体験

ｲｾﾘｱｶｲｶﾞﾗﾑｼ

ﾙﾋﾞｰﾛｳｶｲｶﾞﾗﾑｼ

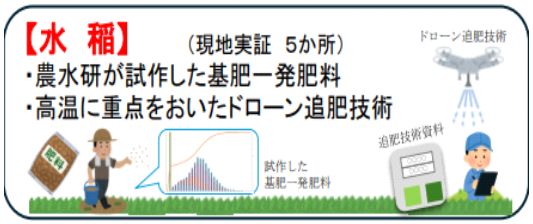
吸汁による生育阻害や、排泄物が誘発する「すす病」により、枝物としての外観品質が低下する。

標　題	農山漁村の活力となる食文化伝承の取組		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年６月 16 日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区生活研究協議会役員（６人）	連携機関	伊予市、松前町	
普及指導内容	○当班は、地産地消の推進及び地域農業振興を目的に、女性農業者組織が参画する「えひめ食農教育推進事業」を活用した食文化普及講座の実施協議を主導した。 ○高齢化等で組織活動の停滞が懸念される中、教育機関や福祉施設等との連携事例を紹介し、食育活動の活性化を促した。			
結果と今後	○会員からは、「動画の活用により、知恵や技のほか、豊かな食生活の重要性を伝えたい」「講座や体験への依頼は増えているが、できる限り応えたい」といった前向きな意見が寄せられた。 ○当班では、会員の意欲を後押しするため、今後も新たな発信方法の提案や地域資源を活用した交流･講座の企画等、組織活動への支援を継続する。			

【えひめ食農教育推進事業】
「第４次愛媛県食育推進計画」(R6 年３月策定）に基づき、農林水産業の視点から食文化の普及・継承と地域農産物の利用促進を図る。

食文化普及講座の実施を協議する女性農業者

標　題	水稲の気候変動対策現地実証試験を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年６月 16 日	場所	伊予市上吾川	
指導対象	水稲生産者（１人）	連携機関	JA えひめ中央、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	○管内の水稲では、気候変動の影響により白未熟粒などの高温障害が発生し、１等米比率が低下しているため、対策の確立が喫緊の課題となっている。 ○当班は、農林水産研究所が試作した基肥一発肥料を活用した「ひめの凜」の現地実証ほを設置し、JA や生産者と協力してその効果を確認している。			
結果と今後	○今後は、収穫期までの継続的な生育状況や収量、品質に関するデータを収集し、検証を進める。 ○当班は、関係機関と情報共有を図り、「ひめの凜」の高品質安定生産による産地の収益力向上を支援する。			



左：実証試験の概要

右：試作肥料の施用

標題	**青年農業者が土着天敵タバコカスミカメについて学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和８年６月 12 日	場所	松山市伊台地区	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会会員ほか（７人）	連携機関	―	
普及指導内容	○当班は、青年農業者を対象に、トマトの難防除害虫であるコナジラミ類対策として、土着天敵であるタバコカスミカメの利用に関する視察研修を主導した。 ○研修では、天敵の生態に係る概要のほか、視察先の生産者から導入の経緯や温存植物であるクレオメの管理、農薬との併用方法等について、説明を受けた。			
結果と今後	○参加者からは、「密度増加時のトマトへの影響と対応が確認できた」「トマト果実への被害が無いことが理解でき安心した」「すぐにでも導入したい」といった意見が寄せられた。 ○当班では、久万高原トマトが「エコえひめ農産物」の認証を取得していることから、天敵を利用した環境にやさしい防除技術を推進する。			

左：天敵利用を学ぶ青年農業者

右：タバコカスミカメ成虫

標　題	**久万高原トマトの出荷始まる**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和８年６月 26 日	場所	久万高原町久万	
指導対象	久万高原トマト部会（81 人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○久万高原町特産の夏秋トマトの出荷が、例年並みの６月 26 日から始まった。 ○JA 松山市の選果機には、今年度より AI 機能搭載のセンサーカメラを導入しており、高精度な品質選別の実現に繋がっている。 ○当班が実証・推進している新品種「桃太郎みなみ」（高温に強い硬玉系品種）の栽培面積は、産地の 85%を占めており、店頭での棚持ち向上などから、市場での高評価が期待される。			
結果と今後	○出荷は、主に京阪神および四国市場であり、11 月末までの間、例年並みの 1,224t を予定している。 ○当班では、今後も新品種の普及拡大と安定生産を推進し、生産量の確保による市場シェアの獲得・維持に努める。			

左：新選果機による選果状況

右：AI ビジョン搭載センサーカメラ

標　題	トレイルカメラで安価に「甘平」の土壌水分の変化を把握		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月 19 日	場所	松山市祝谷、浅海	
指導対象	甘平生産者（３人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○当室は、「甘平」の裂果軽減を目的に、気候変動適応産地づくり総合対策事業（R8 年度～）を活用し、堆肥施用による根域環境改善の実証ほを３か所設置した。 ○対策は、発生と関連の深い土壌水分変化の把握が重要であるが、自動で測定・記録する機器は高価であるため、安価なトレイルカメラを用いて土壌水分計のメーターを一定時間ごとに撮影し、連続的なデータの取得を試みている。			
結果と今後	○当室は、根域環境改善を図った土壌の水分変化と裂果の状況を調査・解析し、栽培管理技術の普及指導に活用する。			

左：樹冠下に土壌水分計とトレイルカメラを設置

右：カメラでメーターを撮影

標　題	さといも新規生産者に夏期管理を講習		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年５月 28 日	場所	松野町松丸	
指導対象	さといも新規生産者等（６人）	連携機関	JA（えひめ南、全農えひめ）	
普及指導内容	○栽培経験が少ないさといも生産者（新規２人、２～３年目３人）等を対象に、夏期管理現地講習会を開催した。 ○生育や収量を左右する重要な夏期を迎えるため、土入れ、かん水、病害虫防除などの管理技術について指導した。 ○JA 全農えひめより、県内主産地における管理技術（除草・追肥）について助言を得た。			
結果と今後	○生産者間で定植時期（３月中旬～５月上旬）に幅があることから、葉の枚数を管理の目安とし、６枚で子芋が着生することを周知。それまでに土入れ作業を行うことを指導した。 ○今後も関係者と連携し、月１回の現地巡回指導を継続して収量の確保に努める。			

栽培２年目の生産者ほ場

標　題	認定農業者組織が経営改善に係る勉強会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 12 日	場所	南予地方局	
指導対象	宇和島市認定農業者連絡協議会会員（12 人）	連携機関	宇和島市、株式会社日本政策金融公庫、JA えひめ南	
普及指導内容	○宇和島市認定農業者連絡協議会員から農業制度資金や補助事業について学びたいとの要望を受け、同協議会の総会に合わせ、勉強会の企画・調整を支援した。 ○勉強会では、当室を含む関係機関から、各資金の特徴や申込み方法、補助事業の採択要件やスケジュールを説明したほか、各機関との個別相談も行われた。			
結果と今後	○会員からは、資金申込みから借入れまでの期間、県内の補助事業の取組状況等について多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。 ○今後も、認定農業者の経営能力向上につながる活動を支援していく。			

勉強会に参加する会員

標　題	高周波音を用いたももの鳥害対策実証を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和８年６月３日	場所	松野町富岡	
指導対象	―	連携機関	八幡浜支局地域農業育成室、松野町、JA えひめ南	
普及指導内容	○ももの生産現場では、カラスやヒヨドリ等の鳥害対策として、鳥が警戒する模型等の設置による追払いが行われているが、園地毎の対策では効率が悪く、また、慣れによる効果の低減が懸念される。 ○そこで、広域的・省力的な対策として、鳥類に忌避効果があるとされる高周波音を用いた鳥害対策実証に取り組むこととし、加工ももの現地ほ場２か所に発生装置を設置した。			
結果と今後	○高周波音は、若年者には耳障りに感じられるため、袋掛け等の作業中は起動を止めている。 ○収穫期を中心に果実の被害程度を調査し、効果を確認のうえ、今後の導入を検討する。			

高周波音発生装置の設置

標　題	**水稲の水管理自動化による省力化実証開始**		機関名	南予地方局農業振興課 鬼北農業指導班
年月日	令和８年６月 23 日	場所	松野町松丸	
指導対象	水稲大規模経営体（１経営体）	連携機関	松野町	
普及指導内容	○水稲栽培の省力化技術の一環として、松野町では初の取組である水位や水温が測定でき、かつ自動で給水・止水を行うことのできる水管理システムの実証を開始した。 ○当システムは、リアルタイムで携帯電話から水位の確認と水口を自動開閉することが可能であり、水管理が最も重要となる出穂期前に、動作確認と適切な操作方法を指導した。			
結果と今後	○生産者からは、「この時期になると片道 15 分かけてほ場まで通い、給水口の開閉をしていたが、楽になる」と好評価であった。 ○大規模農家を中心にスマート農業技術導入への期待は高まっており、今後も水管理システム設置による省力化実績や生産者の感想をとりまとめて地域に共有し、水稲生産者への普及を図る。			

出穂前に水管理システムの動作を確認

標　題	**ドイツ・ベルリン愛媛フェアに「misho（河内晩柑）」を発送**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年５月 25 日(浸漬・こん包日) 令和８年６月 18 日～20 日(フェア)	場所	マルエムフルーツアイランド　選果場	
指導対象	マルエムフルーツアイランド	連携機関	愛南町農業支援センター、 JA えひめ南、食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	○「misho」のさらなる PR と販路拡大を図るため、ベルリンで開催された愛媛フェアに出品する果実の選果・こん包作業を指導した。 ○ヨーロッパまで「misho」を良好な状態で届けるため、関係者がスケジュールを共有し、連携して輸送ルートにおける温度管理を徹底した。			
結果と今後	○収穫から出荷まで迅速に対応できる体制を整え、綿密な管理により腐敗なく良好な状態で現地へ届けることができた。 ○今後も、良質な果実を届けられるよう、輸出向け果実の袋掛け栽培の実証を計画している。			

左：浸漬による表面殺菌作業
中：ヨーロッパに輸出される「misho」
右：愛媛フェア（ドイツ）

標　題	「つるむらさき」の新規産地・愛南町で出荷講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室 愛南農業指導班
年月日	令和８年６月 18 日	場所	JA えひめ南南宇和選果場	
指導対象	つるむらさき生産者（４人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○つるむらさき新規栽培者に対し、初出荷に向けた収穫・調整方法についての講習会を開催した。 ○定植したほ場で害虫による食害が多発したため、主要な病害虫を中心に防除対策について指導した。 ○あわせて、熱中症事故およびマダニ被害の現状や予防ポイント、発生時の対応方法について助言した。			
結果と今後	○生産者からは、出荷基準や収穫のタイミングに関する質問が活発に寄せられ、生産意欲の高まりがうかがわれた。 ○今後も定期的に個別巡回や講習会を実施し、安定した生産支援と産地拡大に努める。			

出荷要領の説明

調整作業の説明

病害虫防除等の指導

標　題	かんきつの摘果について意識統一		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 16 日	場所	八幡浜市（川上町、保内町）	
指導対象	JA にしうわ営農指導員等（15 人）	連携機関	JA にしうわ	
普及指導内容	○令和８年産かんきつの摘果作業が本格化するのを前に、当室と JA で摘果方法の目合わせ会を実施し、指導方針の意識統一を図った。 ○今年産は裏年の年回りであるものの想定より着果量は多い状況にあり、園地や樹によりバラツキも見られることから、着果量や樹勢に応じた摘果方法等について検討した。 ○また、指導に当たっては、各農家の経営状況に応じ、着果量や品種構成等を考慮して、作業の優先順位をつけるよう指導することを申し合わせた。			
結果と今後	○参加者からは、「指導方針が明確になったので、今後の講習会や個別指導に役立てたい」との意見があった。 ○引き続き、関係機関と情報共有や意識統一を図りながら、かんきつの連年安定生産に向けた栽培指導に取り組む。			

関係者が着果状況などを確認
左）温州みかん園地
右）不知火園地

標　題	**新規就農者確保に攻めの一手！倉庫問題解決プロジェクト始動！**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和８年６月 12 日	場所	八幡浜支局	
指導対象	－	連携機関	JA にしうわ、八幡浜市	
普及指導内容	○管内では、農業用倉庫の不足が深刻化しており、Ｉターン就農希望者の受入れが困難となるなど、倉庫の確保が喫緊の課題となっている。 ○このため、関係機関が密に連携して迅速に課題解決を図ることを目的に、JA、市、当室をメンバーとする「新規就農者確保環境整備プロジェクト」を立ち上げ、当日に開催した第１回プロジェクト会議において、対応策や今後の方針について協議した。			
結果と今後	○同プロジェクトでは、室内会議だけでなく、倉庫設置候補地の現地確認や、代替施設として注目される海上コンテナ活用事例等の視察を通じてメンバー全体の意識醸成を図ることとしている。 ○今後は、月１～２回のプロジェクト会議を開催し、課題解決策を抽出の上、各関係機関の役割を明確にしながら、課題解決に向けて対応を進めていく。			

標　題	**高周波装置を利用した鳥獣被害抑制実証ほを設置**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年６月４日	場所	内子町重松	
指導対象	施設ぶどう農家（７人）	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○内子町内のぶどう園で問題となっているハクビシンの被害抑制を図るため、農家及び JA と連携のもと、高周波を利用した鳥獣被害抑制技術の実証ほを設置した。 ○当技術の実証は２年目であり、昨年は被害が大幅に軽減され、その効果を確認したところであるが、今年は年次変動等による効果のバラツキなどを検証する。			
結果と今後	○同技術の有効性が確認できれば、実証結果の周知や高周波装置の導入支援を行うなど、ぶどうの鳥獣被害抑制を積極的に推進し、産地の発展に繋げたい。			

【高周波を利用した鳥獣被害抑制技術】
動物が嫌がる高周波を放射して「音のバリア」を作り、鳥獣の飛来・システム接近を防ぐ獣害対策技術である。

高周波装置の設置

標　題	**シャインマスカットの副梢（ふくしょう）管理省力化実証試験を開始**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年６月 15 日	場所	内子町天神	
指導対象	JA 愛媛たいきブドウ部会員(43 人)	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○シャインマスカットは、果粒肥大促進を図るための副梢管理の徹底が必須であるが、多大な労力を要するため、それが面積拡大の阻害要因となっている。 ○そこで、当班が部会に働きかけ、新梢伸長抑制効果が期待できる植物成長調整剤の利用による作業の省力化と、果実品質への影響を検証することとなった。 ○今回は、６月 18 日の散布を前に、新梢と副梢長の事前計測等、今後の効果確認のポイントについて指導した。			
結果と今後	○今後は、収穫開始まで約 10 日おきに新梢伸長抑制効果を検証し、省力化技術の確立と地域への普及を目指す。			

【副梢管理】
ぶどうの副梢（結果枝から伸びる脇芽）の葉を１枚残して摘心することで、樹勢のコントロールと果粒肥大を促進する。

左：副梢の摘心を行った箇所
右：新梢と副梢長の事前計測

標　題	**今年も地元の生徒・児童が大野ヶ原にんにくの収穫作業を体験**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和８年６月９日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	西予市立大野ヶ原小学校児童（９人） 県立野村高校生徒（20 人） 大野ヶ原にんにく組合（３人）	連携機関	西予市、（株）祐 県立野村高校、 西予市立大野ヶ原小学校	
普及指導内容	○大野ヶ原で生産する寒地系にんにく「福地ホワイト六片」の理解促進と PR を図るため、５回目となる収穫体験交流会を開催した。 ○当班は、手堀りによるにんにくの収穫や根切り調整作業方法について説明・指導を行うとともに、高校生がこれまでの大野ヶ原にんにくとのコラボ活動について紹介した。			
結果と今後	○児童からは、「去年よりも上手ににんにくを引くことができてうれしかった」「大野ヶ原にんにくをおうちに帰って早く食べたい」といった感想が聞かれた。 ○当交流会は、日ごろ農作業を行っていない児童・生徒らにとって貴重な体験の場となり、大変好評であった。 ○次回は 10 月に植付け体験交流会を実施する予定であり、当班は、今後も大野ヶ原にんにくの安定生産と知名度向上に取り組む。			

左：高校生の活動発表
右：にんにくを収穫する小学生

標　題	さといもの新たな産地化を目指して		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月２日	場所	西予市宇和・野村	
指導対象	さといも生産者（26 人）	連携機関	農林水産研究所、JA ひがしうわ	
普及指導内容	○西予市のさといも栽培は急速に拡大しており、令和８年の栽培面積は約 6.6ha（令和４年対比約 150%増加）、新規栽培者は５人となり、さといもの新たな産地としての形成が進んでいる。 ○そこで、今後の基本的な栽培管理及び気候変動により生じる課題の解決に向け、農林水産研究所の研究員を講師に招き、講習会を開催した。 ○併せて当室は、生育状況調査の結果を報告するとともに、機械化促進の一環として、県単補助事業により導入した土入れ機械の実演会を実施した。			
結果と今後	○参加者からは、「害虫に対する農薬を教えてほしい」「夏の高温で肥料切れが早くなっているが、追肥は畝間でよいのか」など、多くの質問が寄せられ、栽培意欲の向上が見られた。機械実演では、作業の速さに驚き、購入を希望する声があがった。 ○今後も栽培基本技術の指導と導入した機械の利用促進に努め、新たな産地化を支援する。			

生育状況調査の報告

土入れ機械実演

土入れ後と土入れ前の畝

標　題	青ねぎの気候変動対策の実証を開始		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和８年６月 11 日、15 日	場所	西予市野村町野村、内子町長田	
指導対象	青ねぎ生産法人（２社）	連携機関	－	
普及指導内容	○近年の夏季異常高温等の気候変動により、青ねぎの８月・９月の生産量が大幅に減少し、周年供給体制の維持が困難となっている。 ○遮光ネット、BS 資材、耐暑性品種、及び白黒マルチによる気候変動対策について、それぞれ実証試験を開始した。			
結果と今後	○遮光ネットは冬季の防寒対策用トンネル被覆に使用している既存の支柱を活用し、クリップで固定しており、低コスト・短時間で設置できることを確認した。 ○遮光ネットの設置作業をした生産者からは、「思った以上に簡単に設置できたので、効果が出ればぜひ実施したい」との意欲的な意見が聞かれた。 ○今後、BS 資材を２週間おきに散布ながら、各試験区の生育・収量調査を実施し、その成果を気候変動対策技術として農家へフィードバックする予定である。			

遮光ネットの設置

BS 資材の散布

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">第１回果樹調査研究会を開催</td><td>機関名</td><td>農産園芸課
高度普及推進グループ</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和８年６月 10 日</td><td>場所</td><td colspan="2">農林水産研究所果樹研究センター</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>果樹調査研究会員（55 人）</td><td>連携
機関</td><td colspan="2">各局支局地域農業育成室、産地戦略推進室、農林水産研究所果樹研究センター</td></tr>
<tr><td>普及指導
内容</td><td colspan="4">○気候変動下における果樹の高品質安定生産を図るため、普及指導員及び研究機関職員が夏季の高温対策等について検討した。
○また、果樹研究センターのほ場で、研究員から日焼け果対策や、「甘平」の裂果軽減対策等に関する最新の研究内容について説明を受け、研究成果に対する理解を深めるとともに、普及指導員の栽培技術及び現地指導力の向上を図った。</td></tr>
<tr><td>結果と
今後</td><td colspan="4">○各普及機関から、中晩柑類やキウイフルーツでの日焼け果軽減対策、かきの軟化軽減対策等、地域の実情や生産者の課題を踏まえた現地実証計画について報告があり、各地域で高温対策に取り組む方針を共有した。
○今後も、普及指導員が研究機関と生産現場をつなぎ、研究成果の導入や現地実証で得られた成果の普及を進めることにより、気候変動など生産環境の変化に対応し、高品質安定生産を継続できる産地づくりに取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
「甘平」の裂果対策を共有</td></tr>
</table>

標　題	**第１回野菜・環境保全型農業調査研究会を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和８年６月 12 日	場所	花き研究指導室	
指導対象	JA 全農えひめ・関係 JA・普及職員（71 人）	連携機関	JA、松山市農業指導センター、IPM 普及技術研究会	
普及指導内容	○近年の気候変動に伴い野菜の品質低下や収量の減少、病害虫・雑草の顕在化など複雑な課題が発生していることから、その問題点や対策について協議した。 ○病害虫防除所の取組や天敵導入事例の紹介があり、病害虫防除所や IPM 普及技術研究会の専門家から、総合防除の実践について説明を受けた。			
結果と今後	○各普及拠点からは、葉焼け・日焼け果など、夏季の高温が原因と考えられる問題が多く挙げられた。 ○対策として遮光資材への注目が高まっており、今後、現地実証を通して有効な使用方法の確立が求められる。 ○本調査研究会で得られた技術的知見を基に、天敵技術の普及や、野菜の品質・収量の向上など、本県の野菜生産技術の向上が期待される。			

天敵の導入事例の報告

関係機関で情報を共有

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543